

第12回「日本語大賞」

テーマ「私を動かした言葉」

高校生の部 優秀賞 受賞作品

「雨のち虹」

イギリス

ダービーシャー日本人補習校

高等部1年 大日 菜々子

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「雨のち虹」

ダービーシャー日本人補習校 高等部一年

大日 菜々子(おおくさ・ななこ)

中学一年生の春に渡英すると聞いた。当初は、「イギリス」という未知の世界に胸を躍らせ、英語を上達させようと張り切っていた。しかし、転校することになったのは、アジア人さえいない現地校。緊張が高まり、すぐに心は雨雲で覆われた。友達を作るのにも不得意な英語でコミュニケーションを取る他なく、いきなりハードルの高さを思い知らされた。目の前にそびえ立つ高い壁を前にして私は後ずさりしていた。勇気を振り絞って話しかけても、無視されることも多く、心に霧雨が寂しく降るような日々が続いた。お昼も食べる相手がいなくて、壁に向かって食べることがほとんどだった。授業中もぼんやりと窓を眺める時間が多かった。窓から薄暗い外を見つめていると、自分も同じように暗い色に染まってしまうようだった。

そんな気持ちを一変させてくれるのが、雨上がりだ。イギリスという国は、一年中梅雨の様な天氣が続く。降水量は日本の半分以下だが、しとしとと雨が降るため、曖昧な天氣が多い。そういう日は、気持ちが乗らない。けれども、一日中降っていた雨が上がると、クラス全員がはしゃぎながら窓にへばりつき、笑顔が溢れる。授業中にも関わらず、先生も見に来る。雨上がりは、暗い空気を取り除いて薄暗いクラスを活気づけてくれる。不思議なことに、雨が上がると、どんよりとした気持ちは前向きな気持ちへと変わって、その日の辛い出来事を全て忘れさせてくれる。私はそんな雨が上がる瞬間が好きだった。

ある日、虹の写真のポスターを英語の教室で見つけた。そこには、「After the rain, comes the rainbow」と書かれていた。「雨のち虹」。雨が降らなければ、虹は架からないように、苦勞することがなければ、努力も実ることはない、という意味合いだった。

「雨のち虹」。この言葉は、友達がなかなか出来なかった私の心に響いた。今日一日を頑張って乗り越えたら、いつかこの努力が実る時が来る。今のがんばりは将来必ず役に立つと。そう思うだけで、気持ちが少し楽に感じられた。

その後も心に大雨が降るようなことが何度もあった。友達作りはそう簡単ではなく、授業中に話しかけるくらいが精一杯だった。それと同時に勉強にもついていけず、帰宅しては布団に潜りこむ日々が続いた。そんな時、ぼつぼつと一定のリズムで降る雨の音を静かに聞いていると心が安らいだ。そして、いつかは心の雨も上がる、後に鮮やかな虹が架かる日も来る、と自分に言い聞かせた。すると、いつしか緊張がほぐれていった。何度挫けてもがんばってコミュニケーションを取ろうという勇氣も湧いた。すると、段々と学校にも慣れてきて、今までの悲しみが心から徐々に抜けていった。SNSを始めたのをきっかけに気の合う友達が出来始め、次第に英語も上達し、友達と違和感なく会話ができるようになった。すると、それほど面識のなかったクラスの友達とも仲良くなることができた。まさに心の雨が上がり、虹が架かった瞬間だった。

私の足元にはまだ長い道のりが続いている。その道を歩む中で、また何度も心に雨が降りかかることがあるだろう。けれども、どの雨もいつかは上がり、心に希望という名の輝かしい虹を架けてくれる。同じように、いつかは努力の一つ一つだった雨の滴もすっかり上がって、目の前の道に光を差してくれる。

「雨のち虹」。

私はこの言葉を胸に、一歩踏み出す。雨雲に隠れた鮮やかな虹を探しに、新たに歩み始めるのだ。